

特集 STOP!! 児童虐待

～11月は児童虐待防止月間～

さしのべた
その手がごじもの
命綱

近年、新聞やテレビなどで児童虐待の報道が多くなりました。幼い子どもが犠牲になる悲劇が後を絶たず、深刻な社会問題となっています。

日常の子育ての中で「自分のしていることは虐待？」とか「もしかしたら虐待してしまいかも」と不安になることはありませんか？また、「あの家の様子はどうもおかしい」と気になることはありませんか？

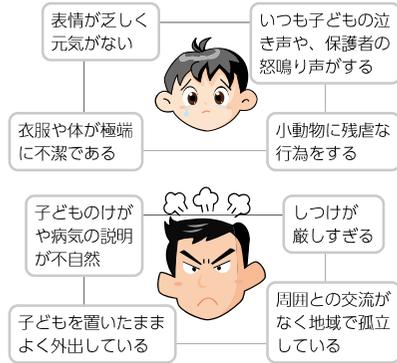
今回の特集では、児童虐待の実態とそれを防止する取り組みを紹介します。

未来を担う子どもたちの笑顔を守るため、私たちに何ができるか一緒に考えてみませんか。

問 子育て支援課(内線166)

それはSOSのサインかも

子どもたちの小さなサインや家庭（大人）の様子を気に留めてみてください。こうした兆候がある場合は虐待が疑われます。



いまなら間に合う！

皆さんの一本の電話で、尊い命を「いま」なら救うことができるのです。

児童虐待の連絡、子育ての不安や悩みの相談は

児童相談所全国共通ダイヤル
☎0570-064-000

全国どこからでも近くの児童相談所につながります。

一人で悩まないで

相談しましょう

子育て中は誰でも不安な気持ちになるものです。そんな時は一人で悩まず、不安な気持ちを誰かに話してみてください。応援してくれる人があなたの周りにいませんか？市の相談窓口もあります。

子どもに向かって上げたその手で、受話器を取って電話をかけましょう。



土岐市家庭児童相談員 柳河瀬久夫さん

親がたとえ愛情を持っていても、「しつけ」のために行ったとしても、気持ち・目的に関係なく、子どもの心身に悪影響が生じれば虐待であると考えています。虐待を受けて育つと、身体はもとより、知能や情緒の面でも発達が遅れ、無気力や無感動の子どもになる確率が高いといわれています。特に自分をコントロールする自律性や、やる気などの自主性が育たないため、依存的で自分で閉じこもりがちになります。他人との感情的な触れ合いも不得意となり、表現能力も乏しくひがみやすくなり、すぐ「カッ」と切れやすく破壊的・暴力的になりやすいといわれます。そしてその子が大人になったとき、自分が受け

たようにわが子に虐待するなど、虐待が連鎖してしまうことが大変問題です。

■早期発見・通告を

「虐待をする親はひどい親だ」「厳罰を」という考え方もあります。私たちは、通告があると48時間以内に子どもの安全確認と家庭訪問をしています。虐待は、虐待した親の中に暴力的な人はほとんどいません。身内や親戚の支援も受けられず、知人や近所のつながりも弱く孤立している場合が多く、話を聞いてみると「大変だなあ」と感じ、暗い気持ちになって帰ることがたびたびあります。私たちは虐待した親を責めるために家庭を訪問するのでなく、どんな支援ができるかを探るために訪問しています。

児童虐待とは

児童虐待とは、保護者が18歳未満の子どもに対して行う虐待のことで、たとえ親が「しつけのためにやった」と思っても、子どもの心や体が傷つく行為なら、それは虐待です。児童虐待は次の通り、大きく分けて4つのタイプがあります。虐待を受けた子どもの心の声とともに紹介します。

心理的虐待
言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対する暴力など、子どもの心に傷を与える行為

身体的虐待
子どもの身体に危害を加えたり、戸外に閉め出すなど子どもの健康や生命に危険を及ぼす行為

性的虐待
子どもへの性的行為や、性的行為を見せること、ポルノの被写体にする行為

ネグレクト（養育放棄）
食事を与えない、ひどく不潔にする、重い病気になっても病院に連れて行かないなど、養育を放棄し子どもの健康や生命に危険を及ぼす行為



児童虐待の現状

